

もも 摘蕾・授粉のポイント

(1) 摘蕾・摘花 : 大玉良品生産のためにも、結実の良い品種は必ず実施しましょう。

摘蕾作業は、蕾の先端がピンク色になるまでふくらんだ頃が最も作業効率が良いです。

遅れた場合は落花期までに花摘みを行ないましょう。

◎摘蕾の方法

- ①主枝・亜主枝・側枝など伸ばす枝の延長枝はすべて摘蕾し、垂れないよう強く保つ。
- ②上向きの蕾を除く。下・横向きは残す。
中長果枝は、先端・基部を除く。
短果枝は基部を除き、先端部を残す。
- ③長果枝(30～50 cm)は、6～8芽、
中果枝(15～30 cm)は、3～4芽、
短果枝は、1芽残す。

＊摘蕾の強弱は、園地条件(凍霜害)や品種によって差をつけても良い。

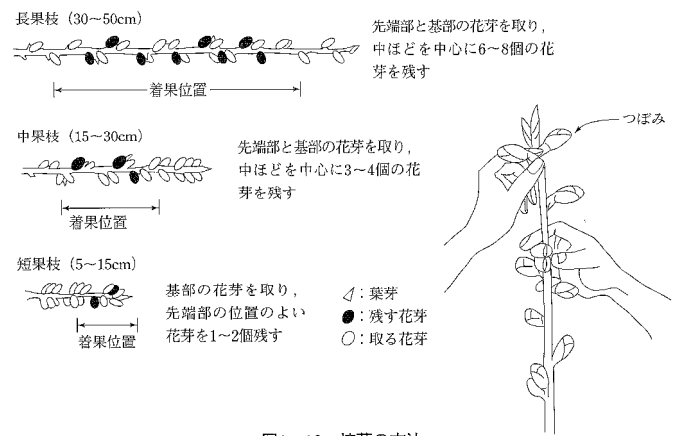


図1-10 摘蕾の方法

◎着果管理の流れ

- ①花粉のある品種の場合：摘蕾・摘花 ⇒ 予備摘果 ⇒ 仕上げ摘果 ⇒ 被袋時の見直し
 - ②花粉のない品種の場合：予備摘果 ⇒ 仕上げ摘果 ⇒ 被袋時の見直し
(花粉のない品種でも場所により結実が良好な場合は(1)に準ずる)
- ＊花粉のある品種は、早く摘果を進め、初期肥大を促進するとともに樹勢を保つ。
花粉のない品種は、結実確定後、変形のない肥大の良い果実を残す。
- ＊白鳳系・あかつき・赤宝・なつっこ・白根白桃・サマークリスタルなどは摘蕾する。
- ＊川中島白桃などの品種で結実が安定しない場合は、摘蕾を行わない。
- ＊ファンタジア・秀峰などは、花芽が少なく果実が不揃いとなりがちなので摘蕾を控える。

(2) 人工受粉

昨年、川中島白桃の着果量が不足した園地は、人工受粉を行なってください。あらかじめ開葯し採取した花粉で受粉することが最良ですが、受粉樹(花粉の多い品種)で開花している花の花粉を毛バタキ・綿棒に付けて相互に交配する方法も効果があります。

もも貯蔵花粉の受付

もも・ネクタリンは天候状態により開花・満開が極端に進み、当用花粉では間に合わない場合や、凍害に遭遇した時に花粉のある品種でも人工受粉が必要となる可能性がありますので、貯蔵花粉の利用をおすすめします。

- ◆共同開葯所(ぶどうセンター内)では、次年度に使用するための貯蔵花粉の受付を行います。
- ◆採取する花は、白鳳・あかつき・なつっこ・山根白桃・白根白桃など花粉の多い品種がおすすめです。
- ◆別途、販売花粉も取り扱っております。

(3) 春に苗木をご購入された皆様へ

春に苗木を定植した場合、土壌の乾燥による生育不良が心配されます。降雨がない日が続く場合は、こまめにかん水を行ない、土壌の乾燥防止に努めましょう。